

小千谷市

橋梁長寿命化修繕計画

令和 8 年(2026 年)2 月更新



小千谷市 建設課

## 1、橋梁長寿命化修繕計画の背景と目的

橋梁長寿命化修繕計画は、橋梁を適切に管理するために平成 19 年度より国土交通省が進める施策です。その内容は以下のとおりです。

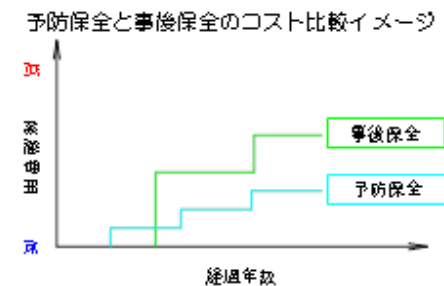
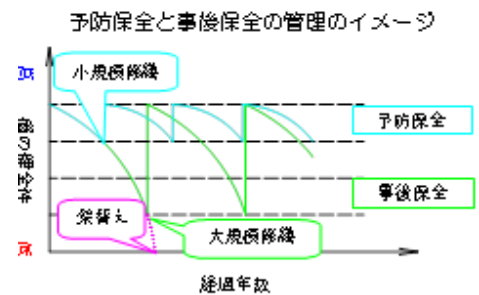
### 1. 目的

地方公共団体が管理している、今後老朽化する道路橋（以下「橋梁」という。）の増大に対応するため、地方公共団体が長寿命化修繕計画を策定することにより、従来の事後的な修繕及び架替えから予防的な修繕及び計画的な架替えへと管理手法の転換を図るとともに、橋梁の長寿命化並びに修繕や架替えに係る費用の縮減を図り、地域の道路網の安全性・信頼性を確保することを目的としています。

### 2. 導入の効果

長寿命化修繕計画に基づき、地方公共団体が道路ネットワークとしての重要性と緊急性を踏まえつつ、健全度の把握、日常的な維持管理に加え、個々の橋梁に対して最も効率的・効果的な修繕を計画的に実施することで、橋梁の長寿命化並びに修繕及び架替えに係る費用の縮減が図られます。さらに、橋梁の長寿命化により、道路のネットワークの安全性・信頼性が確保されます。

（以上、国土交通省道路局 HP「長寿命化修繕計画策定事業費補助制度の創設」



### 3. 社会的背景をふまえた国土交通省でのさらなる取組み

平成 24 年 12 月に発生した中央自動車道笹子トンネルにおける天井板落下事故を契機に、国土交通省では、自治体の財政的な支援に加えて技術的支援をさらに積極的に行う体制を構築する方針とし、平成 26 年 5 月に橋梁の長寿命化修繕計画を包括する「国土交通省インフラ長寿命化計画（行動計画）」をとりまとめました。さらに、省内に設置した「社会資本整備審議会・交通政策審議会技術分科会技術部会」において、基本計画に基づいた具体的な取り組みを推進するため、『社会資本のメンテナンス情報に関わる 3 つのミッションとその推進方策』（平成 27 年 2 月）を示しています。

#### 国土交通省「社会資本のメンテナンス情報に関わる 3 つのミッションとその推進方策」

- ミッション 1 : 現場のための正確な情報の把握・蓄積
- ミッション 2 : 国民の理解と支援を得るための情報の見える化
- ミッション 3 : メンテナンスサイクルを着実に回すための情報の共有化

## 2、個別施設毎の長寿命化計画(橋梁)

小千谷市は、橋梁の特性や維持管理・更新等に係る取組状況等を踏まえつつ、以下に示す記載事項を基本として、メンテナンスサイクルの核となる個別施設計画を策定し、これに基づき戦略的な維持管理・更新等を推進します。

### ①対象施設

小千谷市が管理する橋梁は、2026年(令和8年)2月現在、177橋あり、これらを本計画の対象とします。このうち、177橋について平成27年度から令和6年度にかけて定期点検を実施しました。177橋の内訳は、道路橋176橋、その他1橋(人道橋※1)です。

※1：人道橋とは主に人や自転車が通行する橋梁のことを指します。

### ②計画期間

橋梁の状態は、年月の経過や疲労等によって時々刻々と変化します。定期点検のサイクルを考慮したうえで計画期間を設定しますが、点検の結果等をふまえながら、適宜、計画の更新が必要です。これまでの点検結果や最新の点検要領から維持管理手法の蓄積を進めながら、計画期間の長期化を図ることで、中長期的な維持管理・更新等に係るコストの見通しの精度向上を図ります。

小千谷市では、

新潟県橋梁定期点検要領[標準点検編](平成26年12月、新潟県土木部道路管理課)

新潟県橋梁定期点検要領[小規模橋梁点検編](平成26年12月、新潟県土木部道路管理課)

を、管理する全ての橋梁の定期点検要領として規定します。

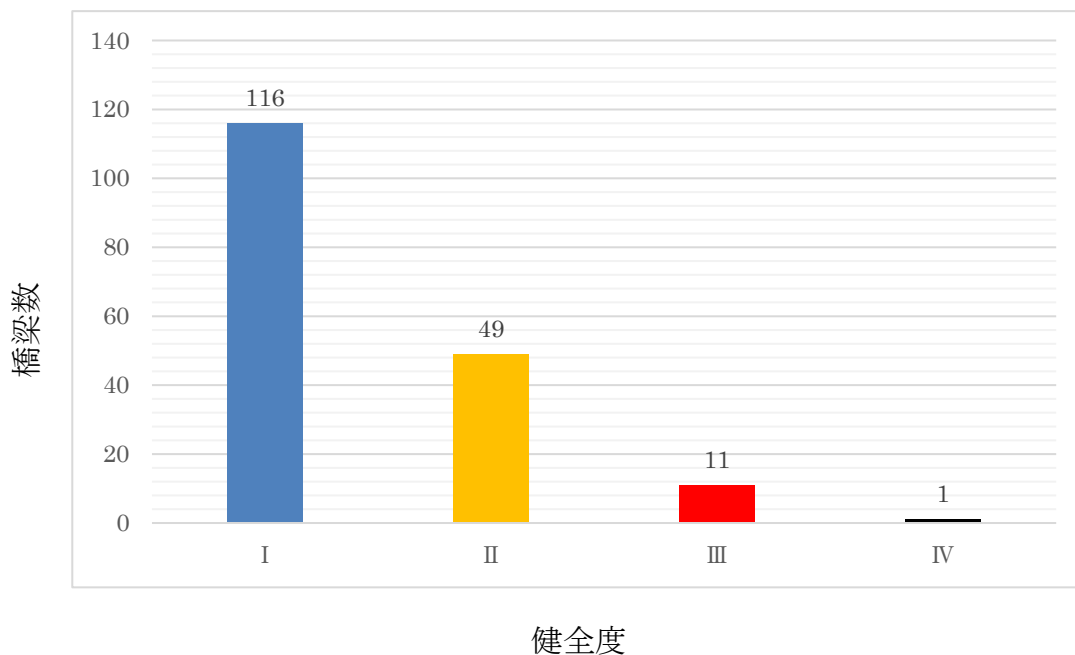
また、上記の点検要領に従い、下記①～③を実施します。

- ①定期点検を5年に一回の頻度で実施します
- ②定期点検は近接目視とします
- ③点検・診断により健全度を「Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」で段階的に評価します

点検を行う頻度から、次回計画更新までの基本サイクルを5年として、将来的に計画の見直しを行う目的から今後10年間の計画としました。なお、本計画は今後の点検の進捗・診断結果等により適宜計画の見直しを行います。

### ③個別施設の状態等

小千谷市では、平成 27 年度から令和 6 年度にかけて定期点検を実施しました。点検の結果、本計画の 177 橋についての健全度は、以下のとおりでした。



### ④対策の優先順位の考え方

橋梁の状態(劣化・損傷や要因等)の他、橋梁が果たしている役割、機能、利用状況、重要性等を考慮し、対策を実施する際の優先順位について、以下に定めます。

対策領域	評価性能	損傷写真	健全度の診断結果	健全度のイメージ	対策の優先度
健全	健全		I	健康	低
予防保全段階	耐久性の低下		II	↑	↑
早期措置段階	耐荷力の低下		III		
緊急措置段階			IV	不健康	高

なお、同じ健全度(例、IIIとIII)である橋梁の優先順位については、重要な部材において損傷を有する橋梁のほか、道路利用者や市民への影響度が高い橋梁を優先的に修繕する考えとします。

## ⑤老朽化対策における基本方針

個々の橋梁の対策内容は修繕の他にも更新の機会を捉えた機能転換・用途変更、複合化・集約化、廃止・撤去などについて検討する。近隣に迂回路があり通行止めとなっても影響が少ない橋梁や道路利用者が少なく通行止めとなっても影響が少ない橋梁の対策内容はそれぞれ経過観察とする。

対策の優先順位については健全性Ⅲの橋梁は事後保全となることから、点検後概ね 5 年以内に対策を完了するものとして年度計画を策定する。対策内容の実施規模によって年度予算内での対応が困難な場合は、予算の平準化を行い、次年度以降への先送り、または前年度への前倒しを行う考えとした。

対策の実施順序の検討条件

1. 健全性の悪い橋梁を優先（診断区分Ⅳ→Ⅲの順）する。
2. 塗膜に PCB が含有している可能性のある橋梁を優先する。
3. 健全性が同程度の橋梁については、第三者被害の可能性のある橋梁を優先する。
4. 第三者被害の可能性が同程度の橋梁については、路線等級が高い橋梁を優先する。
5. 路線等級が同程度の橋梁については、15m 以上の橋梁を優先する。

## ⑥新技術の活用に関する基本的な方針

定期点検においては、「点検技術性能カタログ(案)(国土交通省)」や「Made in 新潟(新潟県)」などを参考に、タブレット点検システム等の新技術の活用を検討し事業の効率化やコスト縮減を図ります。

また、修繕工事を実施する場合は、新技術の導入によるライフサイクルコストの比較検討を行い、コスト縮減が図れる有効な新技術は積極的に採用します。

令和 10 年度までに市内全橋梁の内、140 橋の橋梁で新技術を活用し、対象橋梁の維持管理コストを約 10 百万円程度縮減することを目指します。

## ⑦集約・撤去等に関する基本的な方針

今後、橋梁の老朽化が進行する状況下においては、橋梁の集約化・撤去も必要となります。限られた維持管理費用の中で、供用開始当時に比べ利用状況が著しく減少している橋梁や損傷の大きい橋梁などについては、架橋地の周辺状況や代替路の有無等を確認したうえで、集約化や撤去も含めたコスト縮減を検討します。

今後 5 年程度で、迂回路が存在し集約が可能な橋梁について、2 橋程度の集約化・撤去を検討し、将来的な維持管理コストを 44 百万円程度縮減することを目指します。

## ⑦計画策定担当部署

小千谷市役所 建設課 TEL0258-83-3514